

第29回 IGC 会場関連委員会報告

西村 進¹⁾・野上裕生²⁾

はじめに

この報告は、京都国際会議場で1992年8月24日から9月3日まで開催された第29回万国地質学会議の会場関連委員会(京都では会場小委員会と社交プログラム小委員会が合同で作業したのでこの様な委員会組織)の活動に関するものである。この委員会の活動は、米国ワシントンD.C.で実施された第28回IGCの会場運営の見学に西村が派遣されたことに始まる(その時からの動きは別に報告があるのでここでは述べない)。

本格的な準備は2年前頃(1990年)から始め、京都府、京都市等に協力・依頼から始め、また、関西での募金の依頼を始めたのも大体その頃であった。1年前頃から次第に多忙を極めるようになり、我々会場関連委員会では京阪神を主体とし、国際会議場の方々の強力な参加もあり、次第に態勢を拡大して行った。

また、我々は次に重点をおいて活動を進めることとした。

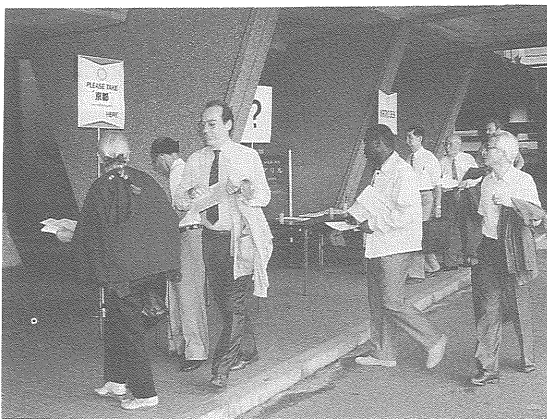


写真1 会場入口の登録番号確認デスク。

- 1) 参加者の方々には地質学会議での実りの多い、また、気の安まる様にしていくと共に、日本での古い都の京都・奈良の文化を知って頂く
- 2) 内外の若い学生・院生が会議に参加して学問的にも国際交流の面でも得をする様に進めていく
- 3) 支出を出来る限り切り詰めて実施するために種々の所をお願いする

の3点である。勿論、運営するものが会議を楽しみながら進めることに心がけた。宗教上の問題にも心がけ、モスクを設けた。その結果、参加者に好評な会議がもたれたと思う。

式典・レセプションに関する準備

開会式は、皇太子殿下の参加が内定した後、たびたび宮内庁・京都府・京都府警と綿密な打ち合せ、シュミレーションを行って、万全の態勢をとり、且

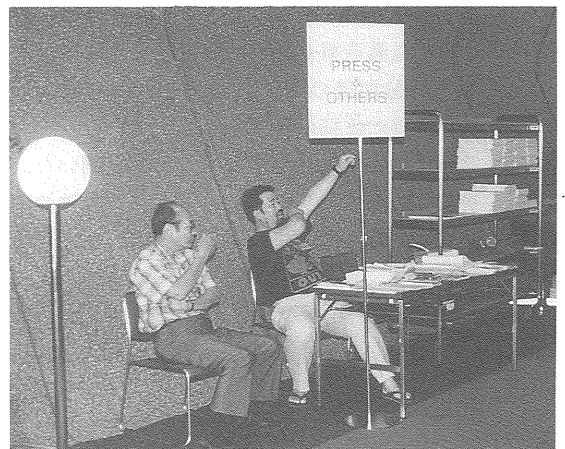


写真2 会場入口で登録と受付け状況を監視する鳥居雅之氏ら。

1) 京都大学理学部；会場小委員長：〒606 京都府京都市左京区北白川追分町

2) 京都大学霊長類研究所；社交プログラム小委員長

キーワード：IGC, 万国地質学会, 会場小委員会, 社交プログラム小委員会, 会場関連小委員会, 国立京都国際会議場

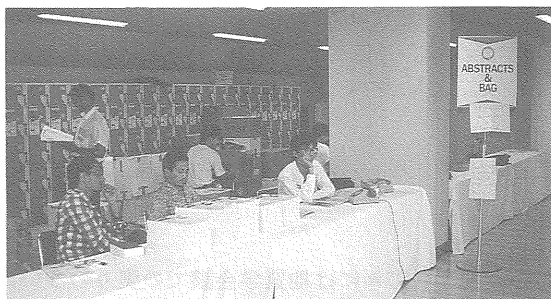


写真3 アブストラクトと配布物バッグ引渡し所。



写真4 会場事務局室 1。左隅 松本良プログラム委員会幹事，西村，佐藤組織委員長，樋口会場事務局員。

つ京都らしい厳かさをもったものになる様、またそれに対して閉会式は明るいものにしようとした。全員参加のレセプションは2回開き、開会式後は皇太子殿下を迎えて行うこととした。これには琴の連弾、伏見酒造組合提供の鏡開きを二ヶ所で行うなどした。参加者の最年長者93才の熊谷直一京都大学名誉教授に乾杯の音頭をとって頂いた。

閉会式の前日にお別れのレセプションを開いた。予定より多くの食べ物、飲物を用意したが食欲の方が旺盛で早くなくなってしまう多くの方々に迷惑をおかけした。

会場運営

会場そのものの運営は、約2年前に数十人で心もとないスタートをしたが、次第に手助けが多くなり、急速的に少ない人数で最も効果的に運営するシステム作りを始めた。実際の会期に近づき、また突入するとこの成果は見事に花開き、全国の多くの地質学専攻の学生・院生をアルバイトとしてお願いし

たことも効を奏し、手足が勝手にうまく自分が何を成すべきか判断し働いた。外部から見ると非常にうまく運営している様に見えたが、内部では各自がその場その場でうまく活動し、ヘッドクォーターの中心は苦情処理と種々の事の最終判断する以外のことはしていなかった。また、有難いことに重病人は3人で主として鎮西清高氏がこれに当たった。

受付・プログラムのコンピューターシステム

口頭発表者、ポスター発表者の欠席のためプログラムに空きが出来ない様、受付・プログラム委員会の間をコンピューターシステムでまとめ上げた。これには、地質調査所の奥村晃史氏、京都大学の鳥居雅之・石川尚人両氏、大阪府立大学の渋谷秀敏氏、東京大学の中村保夫氏等に負う所が大きい。会期前半は夜中までの活躍であった。20におよぶ会場は、40大学からの多くの学生・院生の参加で運営され、その割当は何日も詳細になされ、京都大学の前田氏夫妻・平島崇男氏等による所が大きい。

ニュース“京都”

ニュースは組織委員会では発行されないことがわかり、急遽会場関連委員会で“京都”を発行することにした。会期中、前夜に原稿を作り早朝に配布する様にしたもので、京都大学の巽好幸氏等が全力で編集にあたった。

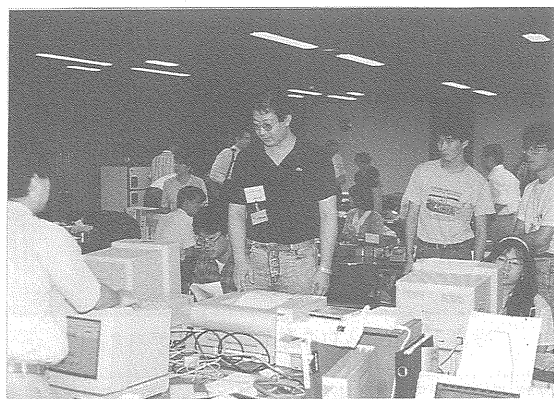


写真5 会場事務局室 2。ニュース“京都”を編集する巽好幸氏(中央)。



京都

August 24 (Monday)

An Official Daily Newspaper
from Operation Committee
29th IGC Kyoto

Welcome to Kyoto for 29th IGC !! We all hope your stay will be fine during the congress. The IGC Operation Committee will publish a daily newspaper, "Kyoto," during the meeting to keep you up-to-date on changes in the congress agenda and in scheduled scientific and social events. "Kyoto" will also carry news and feature stories about events and presentations at the 29th IGC and other topics of interest to you all.

Kon'nichi-wa 1 (Good day !)

Tadashi Sato,
President of the Organizing committee,
29th IGC

Do you feel IGC to be too big ? Yes, we have received to date more than 4,000 registrations from over 98 countries of the world. It is a huge gathering, and we can not get acquainted with all participants, even though you want it. It is not possible for any of us to attend all meetings being held in IGC. But you can learn many recent achievements of different fields of earth sciences by attending special symposia envisioned and planned by our Scientific Program Committee. This could be a supreme opportunity, I hope, for us all to get a taste of other domains of earth sciences, attending in a single series of symposia. In fact, our catch phrase of Scientific Program is "From Origin of the Earth to Human Survival!". It is written as a subtitle under the heading of Scientific Program, but you could have overlooked it with a quick glance of our Circulars.

Do you think IGC should focus on specialized topics ? Yes, the 29th IGC is the first congress to be held in an island arc. Many of our symposia aim at emphasizing natural phenomena taking place in this particular area of the Earth. Some of our multidisciplinary symposia are entitled explicitly with island arc phenomena. We had to cover all existing fields of earth sciences by series of disciplinary symposia, but you can encounter many arc-related topics there too. Unfortunately I could not invite earthquakes or volcanic eruptions during your stay in Japan, but you are encouraged to catch a chance to be familiar with geological records of such phenomena during your field trips. However,

there is a very slight chance to experience it by yourselves. Wait and keep hoping hope for it.

Do you think IGC should meet societal demands ? Yes, we have subdivided our time table largely into two segments. The earlier segment of the session emphasizes an academic side of earth sciences, which is of course a core of development over centuries. The later segment of our scientific program is basically devoted to applying fields of earth sciences, in responding to the increasing societal needs of geology and related sciences. Human survival depends on scientific assessment of the earth itself, and we have set our target onto focusing on "Frontier Studies for Human Survival". By the way, studies of natural hazards are one of the Japanese specialties, besides high-tech audio and computers.

Do you think Kyoto IGC relaxing? Yes or no. I hope you will find a bit of Japanese civilization in this old city of Kyoto. This city has nearly 1200 years of history, which will be celebrated two years from now. If you still have your skillful geologist's eyes, you can rediscover the law of superposition which applies perfectly to this city. Old buildings and monuments are covered and surrounded by dusty modern barracks. Won't you find an old culture buried under the ground which you are standing on ? More difficult to look for is non material civilization. You are encouraged to ask your Japanese friends where to go and what to see. Many of our colleagues will be unable to answer, but basically it is up to you whether you discover it or not. I recommend you to catch a chance to go out of the city, where you will find an entirely different Japan, escaping from serious debates continuing in the congress rooms. Enjoy !

HAVE YOU GOT ABSTRACT ?

You should pick up Abstract and Congress Bags at the Abstract & Congress Bags Desk near Room E (basement floor). Please show your Abstract/Congress Bag coupons that have been provided at the Registration Desk.

第1図

本会議会期中に会場小委員会から出版されたニュース“京都”。図は8月24日版の一面。

ビジネス会議

各種学会、団体の100以上のビジネスミーティングが会議場を中心に主に夜に開催された。この世話は主として、京都大学の野照文・味喜大介両氏、九州大学の茂木透氏が行った。

広 報

新聞など報道関係は、会期前は京都大学の西村進・野上裕生・大野照文両氏が当たったが、会期中は報道関係の控え室も作り一般への普及を心がけ、山形大学の原田憲一氏、京都大学の瀬戸口烈司氏が

当たった。その結果多くのTVニュースや新聞記事が流された。

メッセージブース

参加者間のメッセージ交換・集会の案内等は富士通の協力を得て、奈良大学の西脇二一氏、大阪市立大学の弘原海清氏等がこれに当たった。

交通 その他

地下鉄の北山駅～会議場間にシャトルバスを運行したが、利用者が多く当初の計画の2倍の運行と



写真6 シャトルバスを降りて会場に向かう参加者(先頭針谷宥氏).

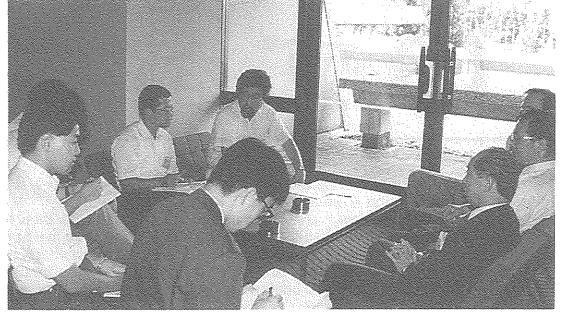


写真8 会場2階のプレスセンターでコンビナーからセッションの話題を聞く報道関係者。奥の右端瀬戸口烈司報道担当。



写真7 会場一隅のメッセージ・ブース。



写真9 お別れパーティー風景。この日は快晴で会場の庭に設けられたテーブルの囲りで別れを惜しんだ。

なった。

ユース कांग्रेस

大谷大学の西田潤一氏がこの運営に当り、夫人方の協力を得て手際よく予定通り実施された。特に益富地質博物館にはお世話になった。実施されたものは8コースにおよぶ。

社交プログラム

二回におよぶ茂山千五郎氏門下による狂言(松本薫氏にお世話になった)、奈良大学の学生とそれを指導されている笠置侃一氏による雅楽が好評であっ

た。開会式レセプションには、上野佳子社中による琴の連弾が華やかになされた。他にほぼ毎日盆栽・盆石・水石の展示、生け花・茶会がもたれ、今井淑子、北川友子、藤川初子諸氏らのお世話になった。日本画教室は大野倣嵩氏にお世話になった。

開会式前日、京都市の援助で市民講座が行われた。バス観光は18コースが行われた。

会場では国際会議場の、上田、大西、一最各氏、また、JTBの後藤氏の貢献的援助、京都府・京都市・京都商工会議所・各大学・各会社等の援助があったことを追記しておきたい。

NISHIMURA Susumu and NOGAMI Yasuo (1993): Report of Operation and related Committees, 29th IGC.